

『新軌道力学』正誤表

(挿入の文言等は「 」内に示し，[]内は誤りを【 】内の通り訂正します。)

口絵写真 ㉔ タイトル：[測定装置 PARO] → 【測定装置 RARO】

はしがき iii 頁下から15行目の前に下記の「 」内を挿入

「久保田晋平 JR西日本より日本機械保線(株)に出向 マルタイの性能他」

11頁，図 I.4.2：図タイトル [径路差] → 【経路差】

35頁，II.4.11式： $[\sqrt[4]{k_t/(4EI_t)}]$ → 【 $\sqrt[4]{R_t/(4EI_t)}$ 】

41頁，図 II.5.14：図中の縦の破線の下部に「 x_0 」を挿入

49頁，頁末尾の図の下に「図 II.5.14 軌道の座屈波形」を挿入

62頁，17-18行目： $[R=433m]$ → 【 $R=433mm$ 】

83頁，3-4行目： $[路線中心]$ → 【線路中心】

86頁，下から2行目： $[新幹線において]$ → 【新幹線において】

98頁，8-9行目： $[乗心地地等]$ → 【乗心地等】

125頁，注IV.5) 2行目： $[列連]$ → 【列車】

129頁，図IV.3.6：図中の $[\underline{\nabla}]$ → 【 \underline{V} 】

139頁，下から6行目：(IV.3.15)の式中 $A/S=2.55-0.015P$ → 【 $A/S=2.55-0.051P$ 】

147頁，下から8行目：整正と破度 → 【整正と破壊】

148頁，図IV.4.3：図タイトル [軌道狂いの] → 【軌道狂い分布の】

153頁，下から1行目：(IV.4.25)の式中 $[\sqrt{1+\alpha_{is}^2 V_{is}^2}]$ → 【 $\sqrt{1+\alpha_{is}^2 V_{is}^2}$ 】

155頁，2行目： $[文献23]$ → 【文献 第IV部23】

165頁，16行目： $[パリ大量輸送公社]$ → 【パリ輸送公社】

235頁，表IV.2.2の7および8行目： $[構圧]$ → 【横圧】

239頁，表IV.2.6の項目2.および5.の中： $[縦目軌道]$ → 【継目軌道】

247頁，下から1行目： $[支振ばね係数]$ → 【支持ばね係数】

278頁，図の下に：「図IV.5.1 小山試験線に敷設された新形式軌道(1/4)」を挿入

279頁，図の下に：「図IV.5.1 小山試験線に敷設された新形式軌道(2/4)」を挿入

280頁，上図の下に：「図IV.5.1 小山試験線に敷設された新形式軌道(3/4)」を挿入

281頁，図の下に：「図IV.5.1 小山試験線に敷設された新形式軌道(4/4)」を挿入

292頁，図IV.5.8：図中の $[弹性材]$ → 【弹性沓】

294頁，図IV.5.9：図タイトル [Radclitff-on-Trent] → 【Radclitffe-Trent】

296頁，9行目： $[において]$ → 【において】

305頁，3行目： $[Hhardend]$ → 【Hardend】

316頁，下から1行目： $[公配]$ → 【勾配】

- 320頁, 下から7行目: [中史の] → **【中央の】**
- 335頁, 7行目: [ワプール] → **【カプール】**
- 340頁, 下から14行目: [精算事業団] → **【清算事業団】**
- 341頁, 表VII.4.5の4行目: [道床構抵抗] → **【道床横抵抗】**
- 343頁, 14行目: [まくらぎおける] → **【まくらぎにおける】**
- 346頁, 13行目: [フィラメント称する] → **【フィラメントと称する】**
- 361頁, 下から5行目: [システムートマス] → **【システムートスマ】**
- 446頁, 図IX.2.9の上図に「図IX.2.8 レベリング伝達関数」を挿入
- 451頁, 下から8行目: [が収能される] → **【が収納される】**
- 456頁, 下から8行目: [作業に直後] → **【作業の直後】**
- 468頁, 下から8行目: [抵石は] → **【砥石は】**
- 485頁, 頁末尾に「量だけ曲上げることとなる。」を挿入
- 487頁, 下から9行目: [特許が纏めた] → **【特許を纏めた】**
- 487頁, 下から3行目: [タンパー] → **【タンパー】**
- 489頁, 下から10行目: [パリ大量輸送公社] → **【パリ輸送公社】**
- 489頁, 下から3行目: [Spano International] → **【Speno International】**
- 525頁, 下から2行目: [鉄道總研] → **【鉄道総研】**
- 530頁, 下から8行目: [Internnational] → **【International】**
- 541頁, 表B.2 60kgレールのコンター表示式の内 区間7の表示式

$$y=2.85286-\sqrt{3.16-(x-6.14526)^2} \rightarrow \mathbf{【y=2.85286-\sqrt{3.61-(x-6.14526)^2}】}$$
- 表B.3 50kgレールのコンター表示式の内 区間11の終点

$$x=14.266, y=6.35 \rightarrow \mathbf{【x=14.216, y=6.35】}$$
- 表B.3 50kgレールのコンター表示式の内 区間11の表示式

$$y=6.15+\sqrt{0.04+(x-14.266)^2} \rightarrow \mathbf{【y=6.15+\sqrt{0.04-(x-14.216)^2}】}$$
- 542頁, 表B.4 40Nレールのコンター表示式の内 区間3の終点

$$x=1.36638 \rightarrow \mathbf{【x=1.37134】}$$
- 表B.4 40Nレールのコンター表示式の内 区間11の表示式

$$y=5.9+\sqrt{0.04-(z-13.3068)^2} \rightarrow \mathbf{【y=5.9+\sqrt{0.04-(x-13.3068)^2}】}$$
- 表B.4 40Nレールのコンター表示式の内 区間13の表示式

$$y=5.9+\sqrt{0.04-(z-13.8)^2} \rightarrow \mathbf{【y=5.9+\sqrt{0.04-(x-13.8)^2}】}$$
- 545頁, 右段13行目: [アタックアニグル] → **【アタックアングル】**
- 545頁, 右段下から1行目: [centritugal torce] → **【centrifugal force】**
- 572頁, 学歴2行目: [昭和35年11月] → **【昭和35年10月】**